SONY×デジタルカメラマガジン×中井精也

α7R Ⅱ&α7S Ⅱで撮る美しき鉄道風景

鉄道写真家 **中井精也**がセルフプロデュース

Interview

テレビでも大人気の鉄道写真家・中井精也さんがソニーのα7R Ⅱとα7S Ⅱ、さらにFEレンズをテーマとしたタイアップページをセルフプロデュースする。中井精也が企画コンセプトを立案、タイトルを考え、撮影場所を決めて、写真を撮影、キャッチコピーを書く。まずはその企画意図を聞くべく、デジタルカメラマガジン編集長の福島が中井さんの事務所へと向かった。

まとめ●山崎理佳

――α7シリーズで撮る鉄道写真の魅力を教えてください。

なんといっても、小型・軽量であることです。これまで使っていたカメラより小さくて軽いのに、画質的に一切妥協することなく35mm判フルサイズセンサーを搭載している点です。使い込んでいくうちにコンパクトさは最強の武器だとあらためて実感しました。もう1つは、カメラの設定がそのままファインダーで確認できることです。僕はホワイトバランスやカラーモードなど、色調やコントラストを大胆に変えて撮影しますが、変更した設定内容がそのままEVFで見えるため、絵作りを確認しながら撮影ができるのです。OVFの場合はファインダーをのぞきながら想像するしかありません。フィルム時代もそうでしたが、「この設定にしたら、こういう仕上がりになるだろう」と写真想像力をフルに働かせてシャッターを切っていたわけです。その点、設定を確認しながら撮影できるEVFは、作品の世界に入ったままテンポよく撮り続けることができます。一度経験してしまうと、もう元には戻れない機能ですね。

――α7R Ⅱとα7S Ⅱの両方をお使いですが、両者の使い分けについても教えてください。

4,240万画素「R」は主に高精細な絵を撮りたいときに、1,220万画素の「S」は高感度を使いたいときや、明暗差が大きい日中、ダイナミックレンジを広くとりたいシーンなどで使っています。「R」には広角レンズ、「S」には望遠レンズの組み合わせをデフォルトにして、この2台を常にカメラバッグに入れています。コンパクトで軽いため2台持っても負担にならず、シャッターチャンスを逃さずに撮影できます。1台ですべて両立している方が良いという意見もありますが、僕はむしろ2台あることで異なる思考で写真を考えることができる方が楽しいと感じています。

――好きなレンズとよく使っているレンズがあれば教えてください。

カメラバッグにはいわゆる小三元と呼ばれるF4シリーズの3本が入っています。α7シリーズのコンパクトボディととてもマッチするコンパクトで高画質なレンズですね。もうキズだらけで、これを見たらどのぐらい頻繁に使っているか分かるでしょ（笑）。もっとも出番が多いのはVario-Tessar T* FE 24-70mm F4 ZA OSSですが、FE 24-70mm F2.8 GMが出てからは、もっぱらG MASTERレンズの方を使うようになりました。最初は少し大きいというか太いなと思ったんですが、ボディに装着してみるとむしろバランスが良いんです。なにより開放の描写が素晴らしくて、もはや手放せません。FE 70-200mm F2.8 GM OSSにも期待しています。これまで、FEレンズは望遠系のラインアップが少ないのが唯一の弱点でしたので、FE 70-200mm F2.8 GM OSSが出るのは非常にありがたいですね。1.4倍のテレコンを装着すれば280mmの望遠域をカバーできるうえに、「R」にはクロップ機能があるので望遠系の大きな武器になると思います。手軽に望遠という意味ではFE 70-300mm F4.5-5.6 G OSSも良く使いますよ。α7S Ⅱと組み合わせれば、開放F値が暗いことは感度でカバーできますから。

――今回のタイアップは中井さんがご自身でセルフプロデュースされるということですが？

普通ならメーカーや編集者が決めた企画意図やレイアウトに合わせるカタチで写真を撮ったり選んだりするわけですが、今回はセルフプロデュースさせていただくということで、とてもワクワクしています。普段は編集者やコピーライターが作るキャッチコピーも、僕が旅で感じたことを好き勝手に書かせていただきます。写真にポエムや音楽を付けることは普段から行っているので、それをタイアップページで展開するという形ですね。

中井さんが愛用するF4シリーズ3本

小三元と呼ばれるF4シリーズ。Vario-Tessar T* FE 16-35mm F4 ZA OSS、Vario-Tessar T* FE 24-70mm F4 ZA OSS、FE 70-200mm F4 G OSSが中井さんのお気に入りの3本。小型・軽量で高画質、α7シリーズのブランドコンセプトに最適なレンズシリーズだ

今もっとも気になる大口径望遠ズーム

さらなる大口径を目指した高級シリーズG MASTER。中でもFE 70-200mm F2.8 GM OSSは中井さんが今もっとも気になるレンズの1本。フルサイズセンサーならではの描写力と大口径ならではのボケ味が同時に味わえる。1.4倍テレコンもとてもコンパクトな設計だ

中井さんの企画意図をデザインラフで再現

レイアウト案1（横3点）

レイアウト案2（横1点＋縦1点）

レイアウト案3（縦1点＋横1点）

中井さんの企画意図を担当編集者の福島がデザインラフにしたサンプル案。中井さんからのリクエストは全部で5つ。写真のレイアウトに合わせて、メッセージ（キャッチコピー）を中井さん本人が執筆する

中井精也からリクエスト

① メインカットを大きく見せたい
② 作品点数は2～3点ぐらいにしたい
③ メインは横位置と縦位置のどちらもある
④ メッセージ（キャッチコピー）を付けたい
⑤ ソニーらしくシンプルでカッコ良いデザイン

僕が写真を始めた中学生の頃に目にした広告って、カメラやレンズの機材情報だけでなく、そこには撮っている人（写真家）の思いが込められていたんですよ。その写真には夢やロマンがあって、旅をしたいという気持ちにさせてくれました。当時の感覚を彷彿とさせるような旅情を出しつつも、商品の良さもきちんと伝わるようなページにしたいと考えています。

――もう少し詳しく企画意図を教えてください。

毎月、僕がどこか旅に出たい場所を決めます。そこで表現するのに最適なカメラもしくはレンズをピックアップして、その被写体と向き合っていくことを考えていきます。レンズによってはバリエーションカットを作ることが難しい状況もあるでしょうが、それも楽しみながらチャレンジしていきます。誌面は2ページしかありませんが、α Universeと連動させて、誌面に載せきれなかった作品も見せていきたいと思っています。誌面に掲載するのは、1つのカメラもしくは1本のレンズに限定しますが、もちろん旅には「R」と「S」の2台と、いろいろなレンズを持って行きます。それらで撮影した写真はα Universeのスペシャルギャラリーで紹介していきます。今のところ春、夏、秋、冬の四季でまとめていく予定なので、こちらも楽しみにしていてください。

――連載タイトル「Beautiful TRAIN Journey」に込められた意味とは？

α Universe

αシリーズを愛用する写真家たちによる作品や撮影秘話、テクニックを情報発信するWebサイト。本企画「Beautiful TRAIN Journey」も連動企画として、デジタルカメラマガジンの発売日10日前後に中井さんがどこの場所に撮影に行ったのかを事前にお知らせするほか、四季のスペシャルギャラリーも公開する予定だ

http://www.sony.jp/ichigan/α-universe/

Profile

中井精也

なかい せいや

TVレギュラー

「ひるまえほっと
てくてく散歩」／NHK総合
「中井精也のてつたび!」／NHK BSプレミアム
中井精也の「にっぽん鉄道写真の旅」／BS-TBS
カメラと旅する鉄道風景／CS各局

1967年東京都生まれ。鉄道の車両だけにこだわらず、鉄道にかかわるすべてのものを被写体として独自の視点で鉄道を撮影し、「1日1鉄!」や「ゆる鉄」など新しい鉄道写真のジャンルを生み出した。2004年春から毎日1枚必ず鉄道写真を撮影するブログ「1日1鉄!」を継続中。広告、雑誌写真の撮影のほか、講演やテレビ出演など幅広く活動している。株式会社フォート・ナカイ代表。著書に『デジタル一眼レフカメラと写真の教科書』『DREAM TRAIN』（インプレス）、『ゆる鉄』（クレオ）、『都電荒川線フォトさんぽ』（玄光社）、写真集に『1日1鉄!』（インプレス）などがある。社団法人日本写真家協会（JPS）会員、日本鉄道写真作家協会（JRPS）副会長。ニコンカレッジ講師。甘党。

http://railman.cocolog-nifty.com/blog/

日本の美しい鉄道風景を僕が旅をしながら探していく。そんなメッセージを込めてみました。Journey（ジャーニー）という言葉が、鉄道の旅を想像させてくれるような気がするんです。もしかしたら日本国内だけでなく、海外にも行くかもしれませんけどね。旅という言葉の英語は「Travel」や「Trip」もありますが、僕はあえて「Journey」にしました。この言葉には旅から旅への途中という意味があります。旅で得た知識や教訓や成長、旅の行為そのものではなく、そのプロセスを指すこともあります。1人の少年が美女と出会って、鉄道の旅を通して1人の大人へと成長してゆく物語がそうであったように、この連載の中で僕がどのように成長してゆくのかを読者の人たちに見せられたら（感じとってもらえたら）とうれしいです。

――どこへ撮影に行きたいですか？すでに決めている場所はありますか？

第1回目は、何年も行きたいと思っていた青森県の八戸線にしたいと思っています。三嶋祭りという小さなお祭りがあって、線路の両脇に屋台がずらりと並ぶんですよ。夜の賑やかな祭りと鉄道を、「R」の高解像度でとらえてみたいと思っています。

2回目はまだはっきりと決めていませんが、夏の雄大な景色を求めに北海道あたりが良いかなと考えています。自分が中高生のときに、広告を見て「いいなぁ、こんなところへ行きたいなぁ」と思ったように、これから写真を始める方にも、すでに写真を始めている方にも、心に響く誌面にできたらなと思います。ぜひ、ご期待ください。

協力：ソニー株式会社／ソニーマーケティング株式会社